

ごあいさつ



皆様には平素より水沢信用金庫に対し格別のお引立てを賜り心より厚く御礼申し上げます。本年も、当金庫の経営内容をご理解頂き、安心してお取引いただけますよう、ディスクロージャー誌「水沢信用金庫の現況」を作成いたしましたので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

さて、平成29年度の我が国の経済は、政府が推進する経済政策の効果に加え、好調な米国経済などに支えられ、マクロでは緩やかな回復基調が続き景気拡大の期間の長さはすでに高度成長期の「いざなぎ景気」を超えております。その一方で、景気回復の恩恵はもっぱら大企業や都市部に偏っており、足元の経済は、少子・高齢化や人口減少により潜在成長力が一段と弱まり、設備投資は依然として力強さを欠いているほか、個人消費も賃金の伸び悩みにより停滞するなど、好景気といわれる割には、豊かさを実感できていないのが実情であります。

また、当地域内の経済においても、経済指標などの数字では緩やかな回復傾向を示しておりますが、企業における人手不足の影響のほか、従来からの課題である少子高齢化等の構造的要因の影響などから依然として地方における中小企業の経営環境は厳しく、数字と実態には乖離があり、まだまだ景気回復には至らない状況であります。

このような情勢のもと、当金庫は後掲のとおり成果を収めることができました。これもひとえに会員の皆様はじめ、お取引先各位のご支援の賜と厚く御礼申し上げます。

当金庫では、平成30年度からスタートさせる新たな3か年計画「しんきん「共創力」発揮～地域と共に未来へ歩み続ける協同組織金融機関を目指して～」に基づき、「つなぐ力」など、信用金庫の独自性・特性や強みを発揮しながら、金庫がこれまで行ってきた取り組みを深めて、地域やお客様を支え、共に発展を目指し、豊かな地域の未来を創り上げていくこと（共創）によって、地域金融機関としての強固な経営基盤と確固たる地歩を確立してまいります。

また、協同組織金融機関として、その社会的使命・役割のもと、地域経済・社会を支えるとともに、リスク管理態勢の整備、経営の健全性確保に注力し、強靱な経営体質の構築に努めてまいりますので、より一層のお引き立てとご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年7月

水沢信用金庫 理事長 及川 和男